曽禰霊松實生之圖

かけまくも畏き天満御神
の植置させ給へる曽根の
神松は千年の後もかはらす
さかえまして弥栄へましまして
幾代霊とかくしも寛政十年といふに枯ぬ
されは愛度霊松の身木にかはらぬ末そ
傳へまつらんと其跡に鞘屋殿をつくりてこれを
祭りしか今も御神の霊やとらせ給ふ故
老木枯るゝ前つかた天明九年の
春対のこと白らし實の生ひ出て
立栄えて今年安政二年まて
およそ七十年の春秋をへて
枝ことにみつ〳〵としけり葉ふかく太さは
三囲余に高さ一丈三尺ほとの者
其の方へ枝葉六七間余西東十五間に茂り
たゝ一面へ這ひ給ふ御神の御心をさとして亀松の
名高き霊樹とそ木形亀松と言ふ
これより千年の後まて栄て枝盛の繁栄を祈る霊樹と
哉まへる今の後の世にいつまても今を愛行末と寿
此霊木これ其処に備へを以て道の人も世々霊木の
幸をいのりて其ことに信なる人々謹而書しるす

内阪寄進
入江正通